

令和4年度 ひきこもり対策推進事業委託業務

ひきこもり対策推進事業 実績報告書

公益財団法人北海道精神保健推進協会
北海道ひきこもり成年相談センター

はじめに

当法人では、平成 21 年度から「ひきこもり対策推進事業」を北海道より受託し『北海道ひきこもり成年相談センター』（以下、「当センター」という）を設置し、第一相談窓口としての機能を果たすとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民に対する普及啓発を行ってきた。

ひきこもりは様々な要因や問題が複雑に関係しているため相談機関 1 ヶ所での対応には限界があり、他機関とも連携し対応を進めていかなければならないと感じている。また、当センターの役割として、直接的な相談対応だけではなく、地域の中でどのようにひきこもり当事者や家族を支えていくのか、道内各地域での人材育成に関わることが急務であると考えており、支援にあたっては、ひきこもりの期間やひきこもり当事者の年齢によってその状態像や支援ニーズは異なるため、状況に応じてアセスメントを行い、支援手段を模索する必要がある。

令和 4 年度では、「ひきこもり相談会・研修会」として、引き続き各保健所および市町村に希望確認を行い、希望のあった地域と連絡調整をし、研修会等を実施した。希望のあった地域は、新たに希望する地域や過去に開催した地域から引き続きの要望もあり、依然としてニーズが高いことが窺える。当年度においては新型コロナウイルスの影響からオンラインでの開催もあったが、昨年度と比べると対面での開催も増えている。

当センターは札幌市に所在し、道内各地での面談での個別相談は限界がある。そのため、ひきこもり支援に携わる市町村職員等への後方支援として、研修会、個別相談、ケース検討などを通じて北海道全体における「ひきこもり支援」のスキルアップを目指した。オンラインを活用した研修会やケース検討は引き続き実施しており、利便性も良いと支援者を始め、当事者・家族からの好評であったため、広域な北海道に有用な手段として今後も活用したい。また、札幌市ひきこもり地域支援センター（当法人受託）において行っている「出張相談会」を活用し、各区民センターに居住地の近いケースの相談を行った。土日相談という事もあり、今後、利便性を含めた出張相談の企画も考えていきたい。

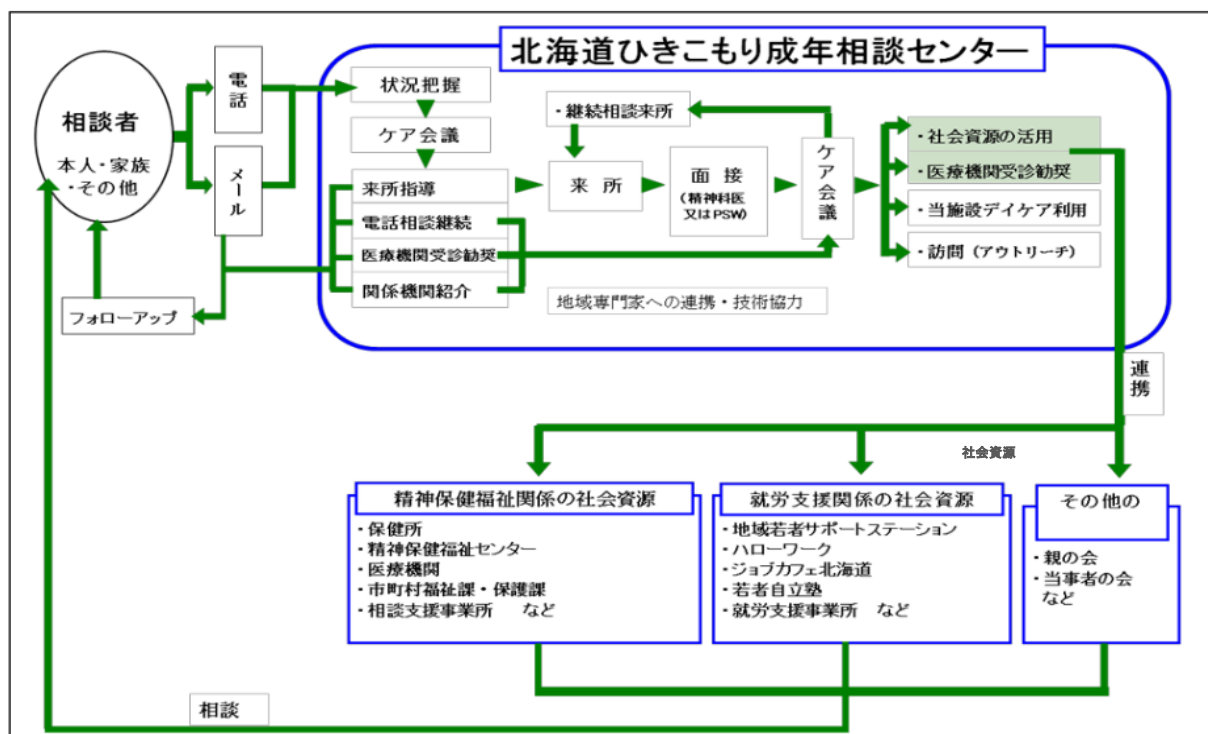


図 1 相談支援の流れ

1. 相談支援実施状況

当センターでは、平成 21 年 7 月 1 日からひきこもりの相談事業を開始している。

なお、平成 27 年 10 月 1 日以降「札幌市ひきこもり地域支援センター」の運営を受託していることから、札幌市民の相談件数はカウントしていない。札幌市民の相談件数をカウントしなくなった平成 28 年度より、相談総件数は増加しているが、これは平成 29 年度より行っている「ひきこもり相談会・研修会」による影響も大きいと思われる。

(1) 相談支援概要

ア. 相談件数

(単位:件)

相談件数計	5 6 2
新規相談	9 4
継続相談	4 6 8

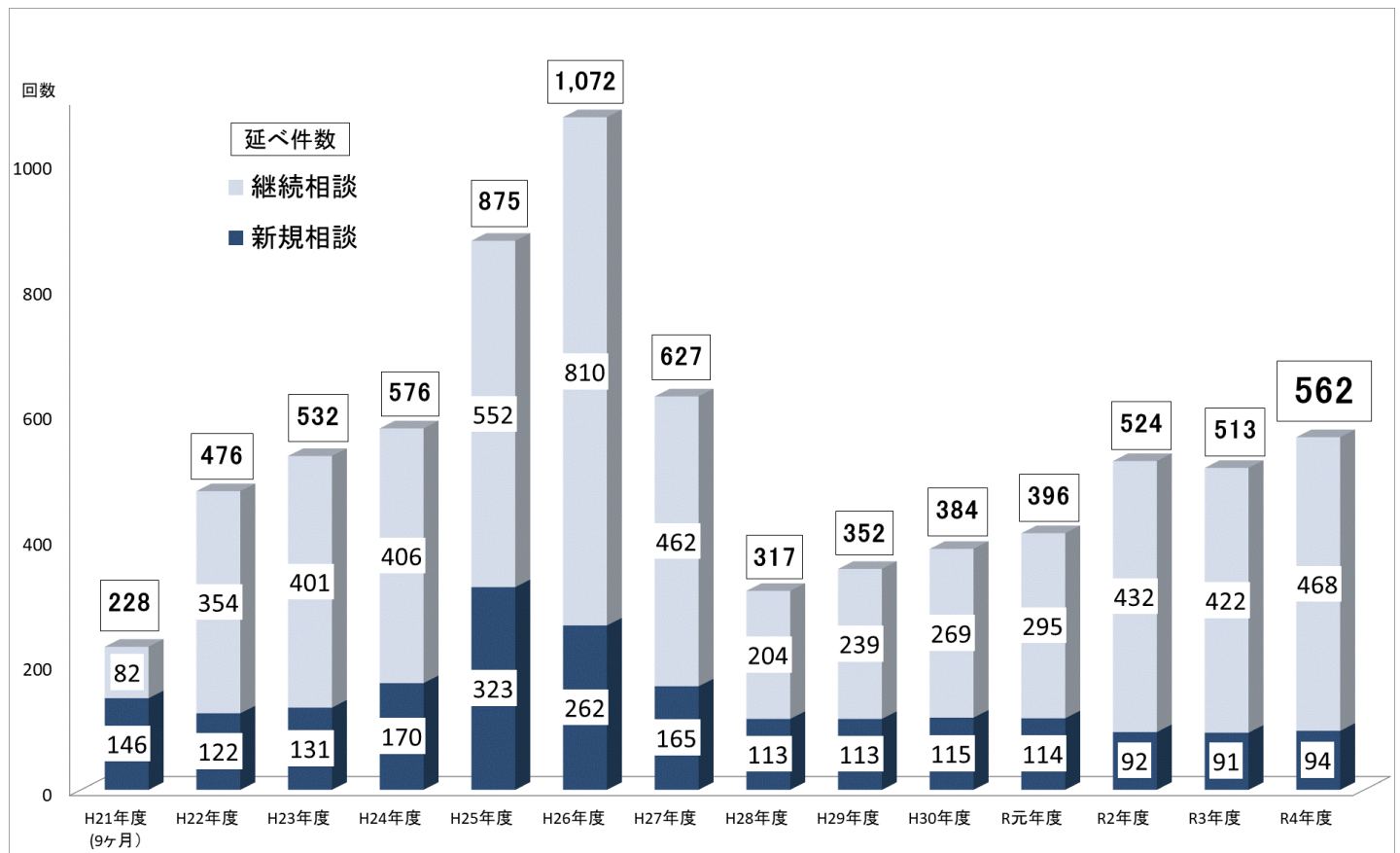


図2 相談件数の推移 (年度別)

○当年度の相談延べ件数は、562件であり、新規相談者は94名であった。

○相談件数は、新規相談・継続相談ともに昨年度より微増している。

イ. 相談者数

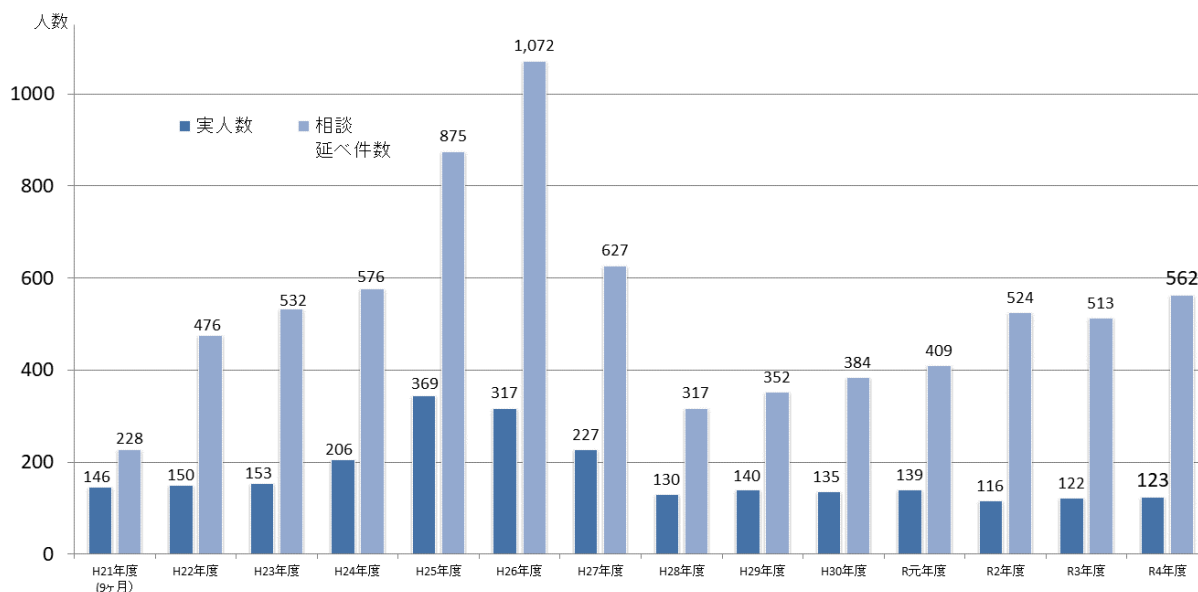


図3 相談延べ件数と実人数（年度別）

○当年度の相談実人数は123名で、平均して1ケースあたり約4.6回の相談であり（前年度は約4.2回）、新型コロナウイルスにおける影響もありながら、昨年度と同程度の件数を維持している。

（※相談実人数は、新規相談者に加え、前年度以前から継続している者も含まれる。）

（※相談実人数123名のうち、新規相談が94名、継続相談が29名となる。継続相談の内訳は3ページ参照。）

ウ. 相談方法

(単位:回)

	新規相談	継続相談	計	構成比
電話	62	85	147	25.3%
来所	2	89	91	15.7%
メール	26	283	309	53.2%
アウトリーチ	3	10	13	2.2%
出張相談等	1	1	2	0.3%
小計	94	468	562	
連携	-	19	19	3.3%
ケア会議	-	-	-	-
小計	-	19	19	-
計	94	487	581	100%

(※相談方法に「連携」、「ケア会議」を含む)

(※「アウトリーチ」には、関係機関を訪問し実施したケース検討会を含む) ※詳細は15ページ参照

(※「電話」には、オンラインによる新規相談が1件、継続相談が3件含む)

○主な相談方法は「メール」や「電話」による相談であり、それぞれ「来所相談」に切り替えるケースもある。

○「メール」による相談件数は全体の半数以上となる。これは、「電話」や「来所」に比べ相談が容易く頻度が多いためと考えられる。当年度の主な内訳としては、「遠隔地であるため継続したメールのみ相談」、「メール相談から来所および外来へ繋がったケースやアフターフォロー」、「遠隔地であったため地元の相談先へ繋いだケース」などがあげられる。

○「ケア会議」に計上はしていないが、必要に応じ、すべての相談ケースにおいて、日頃から所内の各相談員同士で支援方法についてケース検討・会議を実施している。

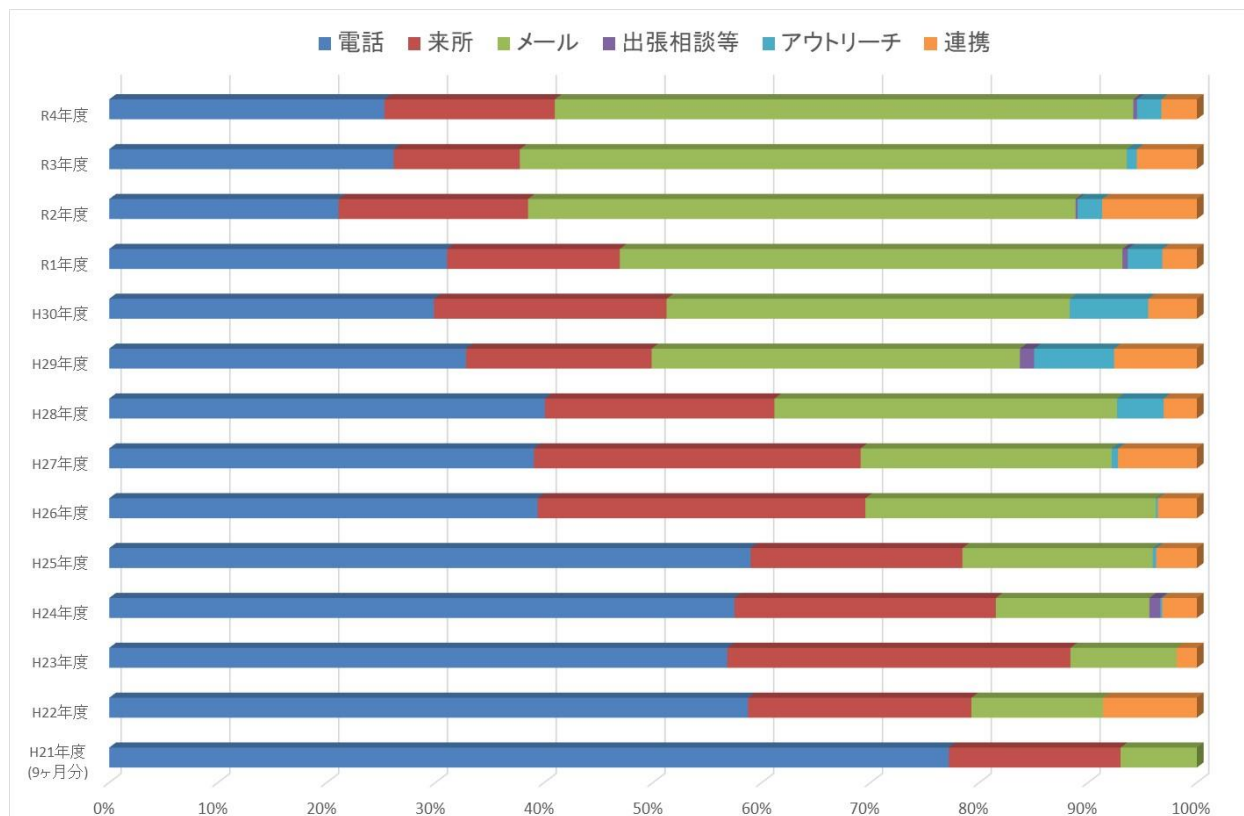


図4 相談方法別割合 (年度別)

エ. 相談時間

相談方法別相談時間区分件数

(単位:件)

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	23	57	56	11	147	65:15	27分
来所	4	8	37	42	91	76:50	51分
メール	196	69	38	6	309	80:55	16分
アウトリーチ	2	1	2	8	13	15:15	70分
出張相談等				2	2	2:00	60分
連携	10	7	2		19	5:20	17分
ケア会議	-	-	-	-	-	-	-
計	235	142	135	69	581	245:35	25分

(1) 電話相談

延べ回数	実人数
147回	74名

○関係機関に向けた ZOOM によるオンライン相談支援を 1 回 (1 カ所) 実施。※地域の詳細は 15 ページ

(2) 来所相談

延べ回数	実人数
91回	23名

(3) メール相談

延べ回数	実人数
309回	39名
※延べ回数はメール受信及び返信の回数	

(4) アウトリーチ

延べ回数	実人数
13回	8回

○関係機関に向けたアウトリーチによる相談支援(ケース検討)を 2 回(1 カ所)実施。※地域の詳細は 15 ページ

○8 ケースにおいて、本人、家族に対してのアウトリーチ相談を実施。

(5) 出張相談等

延べ回数	実人数
2回	2回

○札幌市ひきこもり地域支援センターにおいて実施している「出張相談会」を活用し、居住地に近い区民センターにて相談を行った。いずれも当センターで基本的に実施していない土日相談である。

(6) 連携状況

「連携状況」は継続相談においての関係機関へのケースの繋ぎ、または関係機関からのケース紹介（初回）、ケース相談などを指す。関係機関より初回相談があった場合は、相談方法における電話等にカウントしている。継続相談の中で、関係機関との連絡等が「連携」であり、下記の「連携状況」はこれらを合算し詳細を記載する。

他機関からの繋ぎ

連携先	件数
民間相談機関	1
医療機関（精神科）	1
市保健センター	1
計	3

他機関への繋ぎ

連携先	件数
役場	9
保健所	2
民間相談機関	2
医療機関（精神科）	1
相談支援事業所	1
教育委員会	1
計	16

(5) 相談者の状況（新規初回相談）

ア. 相談者内訳

	件数	構成比
本人	26	27.7%
父	4	4.3%
母	28	29.8%
両親	2	2.1%
兄弟姉妹等	22	23.4%
その他	12	12.8%
計	94	100%

○当年度は、昨年度と同程度「本人」からの新規相談が約3割となっている。

○「その他」は、12件のうち、1件は他機関からのケース相談や、ケース紹介であった。
2件は友人や知人からの相談であった。

イ. 相談方法別相談者内訳

(単位:件)

	電話	来所	メール	アウトリーチ	出張相談等	総計
本人	13		13			26
父	2	1	1			4
母	23		2	2	1	28
両親		1		1		2
兄弟姉妹等	13		9			22
その他	11		1			12
計	61	2	26	3	1	94

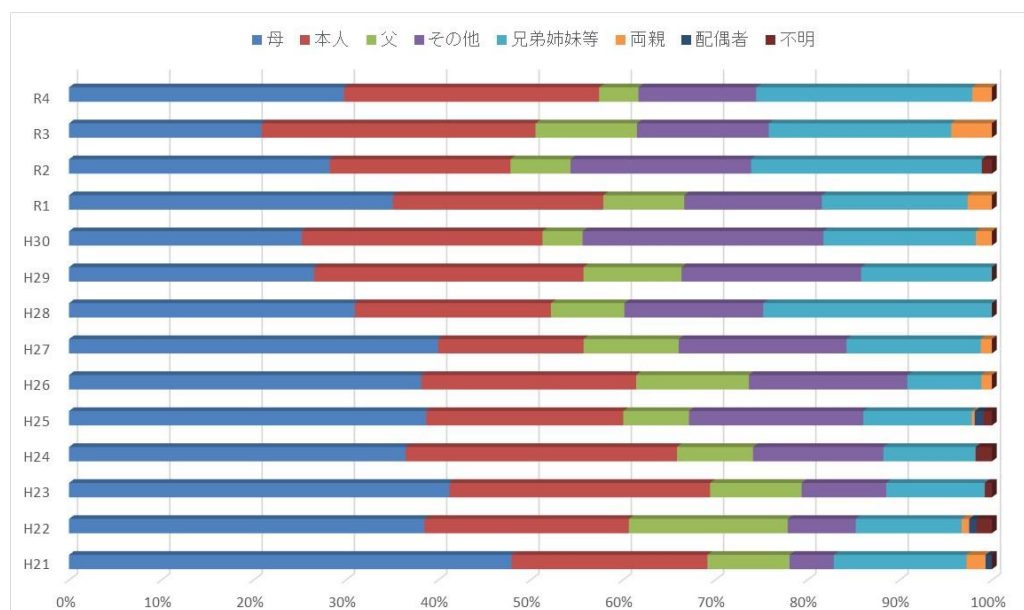


図5 相談者内訳の割合と推移（年度別）

○当年度は、「母」からの新規相談が一番多くなった。

○「兄弟姉妹等」には、叔父、姪、祖母、義妹などの親族も含まれる。

(6) 当事者の状況

ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	計	構成比
20 歳未満	7	5	12	12.8%
20 歳以上～30 歳未満	18	6	24	25.5%
30 歳以上～40 歳未満	10	5	15	16.0%
40 歳以上～50 歳未満	10	2	12	12.8%
50 歳以上～60 歳未満	11	4	15	16.0%
60 歳以上	3		3	3.2%
不明	10	3	13	13.8%
計	69	25	94	100%

○「50 歳未満」が 78 名おり、全体の約 8 割を占める。

○最少年齢は 12 歳、最高年齢は 65 歳となっている。男性の平均は 35.8 歳、女性の平均は 31.8 歳、全体平均は 34.8 歳であり、昨年度とほぼ同じである。

○「不明」には、主な課題が「ひきこもり」ではないケースもあり、年齢が確定しない場合がある。

○新規相談者の男女比は約 7 : 3 となっている。

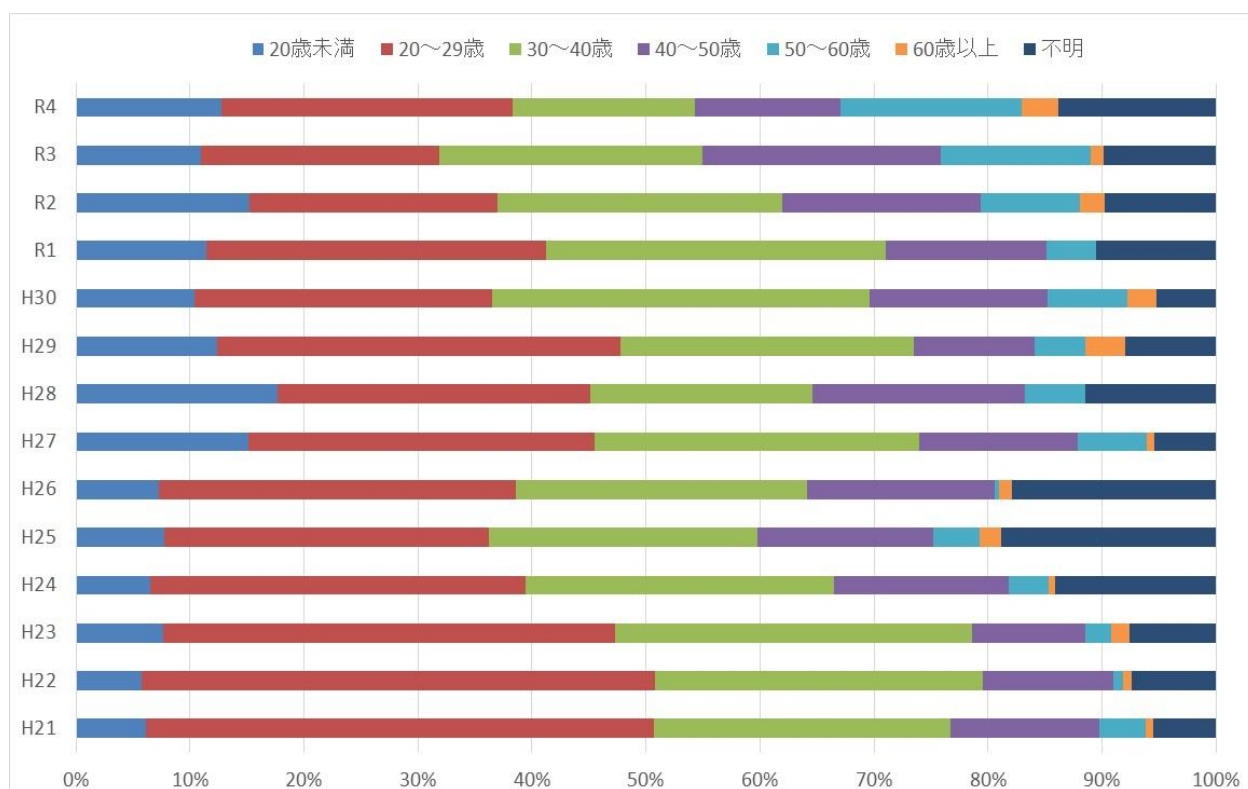


図6 当事者の年齢区分別相談割合 (年度別)

イ. 当事者の居住地

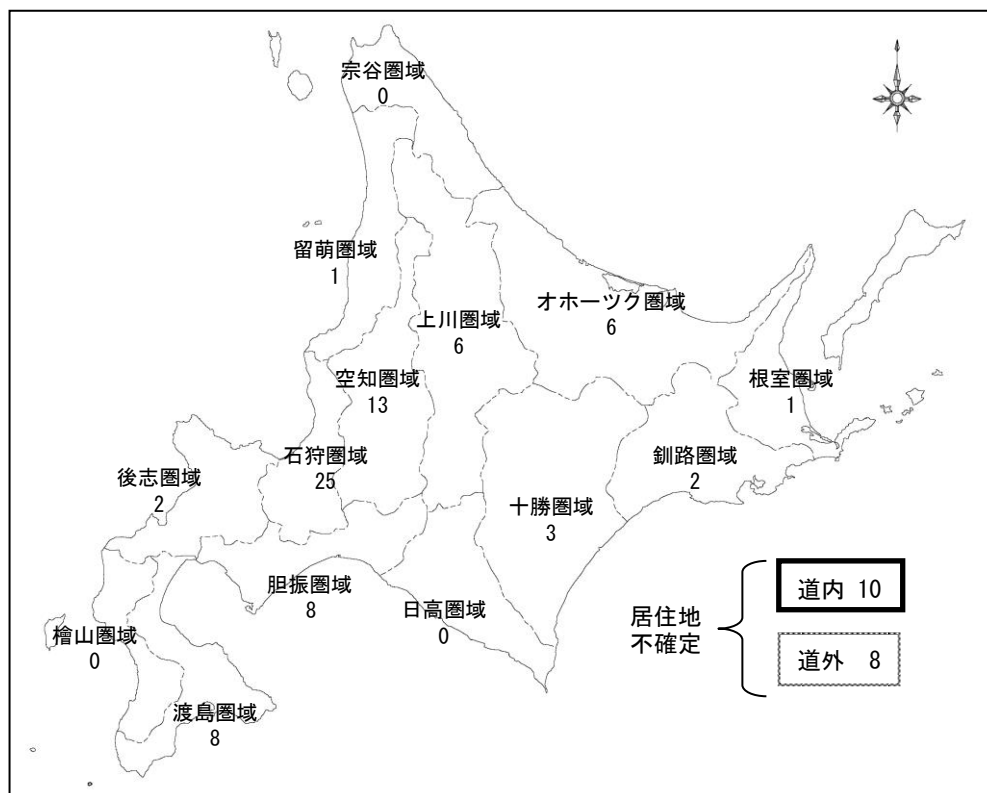


図7 当事者の居住地

○当年度の相談のうち、「石狩・空知」圏域からの相談者が合計で38名と最も多く、これは当センターが札幌に所在しているのが要因だと思われる。

○「ひきこもり相談会・研修会」の実施により、遠隔地でのアウトリーチによる相談に繋がっている。

年度によって実施希望が違うため圏域の件数に違いが出る要因でもある。※地域の詳細は15ページ

○「道外」については、適切な関係機関を紹介するなどして対応した。

圏域	
石狩	25
空知	13
道内	10
胆振	8
道外	8
渡島	8
上川	6
オホーツク	6
十勝	3
後志	2
釧路	2
留萌	1
根室	1
不明	1
宗谷	0
檜山	0
日高	0
計	94

(9) 相談目的

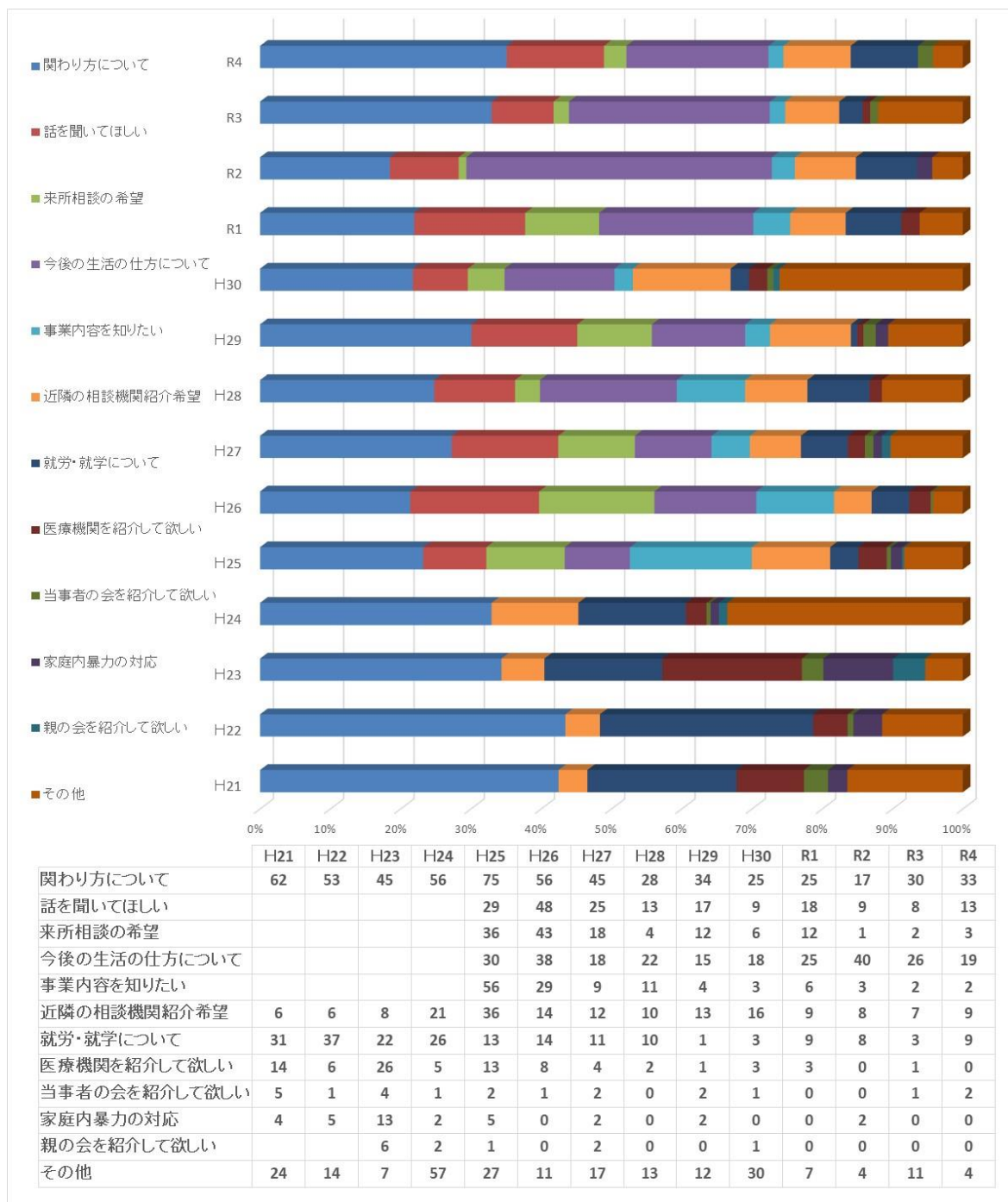


図8 相談目的件数の割合と推移（年度別）

○相談理由は多岐にわたっている。「関わり方について」「今後の生活の仕方について」が依然として相談目的として高い値を示している。

（※平成25年度より相談目的の分類を追加している）

(10) 他機関への相談経験の有無

	件数	構成比
相談経験あり	54	57.4%
相談経験なし	1	1.1%
不明	39	41.5%
計	94	100%

○当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が 54 件、約 6 割あり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが窺える。また、1 ヶ所だけではなく複数の他機関にすでに相談しているケースも多い。

○相談先は、医療機関（精神科・心療内科）が最も多く（34 件）、市役所・役場（6 件）、学校・教育相談（4 件）、保健所（4 件）、若者サポートステーション（3 件）、残りは医療機関（他科）、当事者会・家族会などであった。

○医療機関（精神科）へ、継続的に相談をしているケースもあったが、治療中断例も少なくはなかった。

(1 1) 相談の継続性

実人数(相談開始時期別)

	R4年度 に相談を 開始	R3年度 に相談を 開始	R2年度 に相談を 開始	R1年度 に相談を 開始	H30年度 に相談を 開始	H29年度 に相談を 開始	H28年度 に相談を 開始	H27年度 に相談を 開始	H26年度 に相談を 開始	H25年度 に相談を 開始	H24年度 に相談を 開始	H23年度 に相談を 開始	H22年度 に相談を 開始	H21年度 に相談を 開始	実人数	相談 延べ件 数	当年度 以前の 相談者 計
H21年度 (9ヶ月)														146	146	228	－
H22年度													122	28	150	476	28
H23年度												131	16	6	153	532	22
H24年度											170	24	7	5	206	576	36
H25年度										298	17	18	7	4	344	875	46
H26年度									262	32	4	11	4	4	317	1072	55
H27年度								165	31	19	2	2	7	1	227	627	62
H28年度							113	6	2	5	1	0	1	2	130	317	17
H29年度						113	11	5	3	5	1	1	1	0	140	352	27
H30年度					115	13	1	1	1	2	0	1	1	0	135	384	20
R元年度				114	9	6	1	3	0	2	0	2	2	0	139	409	25
R2年度			92	11	5	4	0	1	1	1	0	1	0	0	116	524	24
R3年度		91	11	9	4	3	0	0	1	1	0	2	0	0	122	513	31
R4年度	94	13	2	5	4	2	0	0	1	1	0	1	0	0	123	562	29

○令和3年度までの相談者のうち、29名が当年度にも相談を継続している。

○就労・就学や通院などにより、ひきこもり状態から脱したケースもあるが、相談の継続をいかに図り、相談後の転帰の把握をすることが今後も課題と考えている。

(12) 相談転帰

初回相談の転帰

転帰	件数
終了	49
助言終了	41
関係機関紹介	7
受診勧奨	1
来所を指導	2
電話・メール相談継続	43
その他	0
中断	0
総計	94

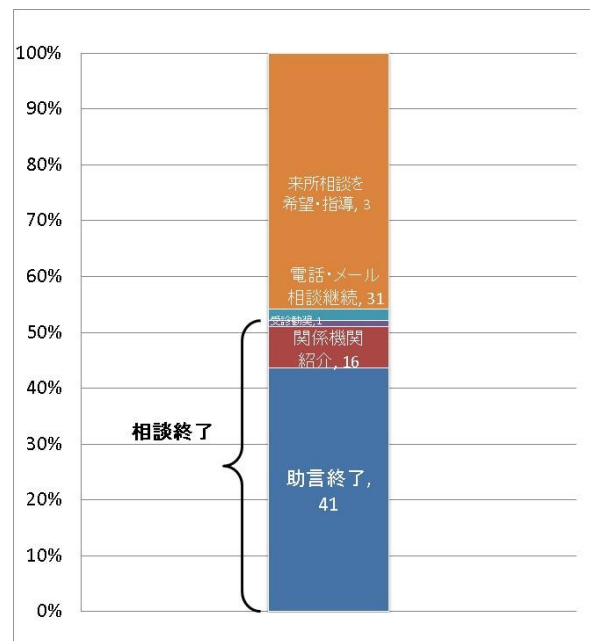


図10 初回相談の転帰

- 初回相談で終了したケース 49 件（52.1%）で、そのうち「助言終了」が 41 件ある。
- 初回相談のうち、助言終了としては「すでに医療機関に繋がっていたケース」や「ひきこもりの相談ではないもの」もあった。
- 電話・メール相談継続が 43 件、来所に切り替えた相談が 2 件で、計 45 件（47.9%）が継続相談を要すると判断し対応した。相談継続の中でも、状況によっては来所に切り替えるケースもある。
- また、助言終了と判断後も再度、電話相談等につながるケースや、別の家族や親族からの相談があるケースもある。

(13) ひきこもり相談から当施設精神科デイケアを活用したケース

ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
令和4年度	1
平成21～令和3年度	38
計	39

○ひきこもり相談から当センター併設のデイケア通所につながったケースは当年度1名であった。
通算39名となった。

○デイケア通所した39名のうち、当年度現在の状況として把握している限りにおいて、※現在21名がデイケアから、就労や就学など次のステップへ移行している。

(※障害者雇用やアルバイト等の一般就労9名、就労継続支援A型事業所2名、就労継続支援B型事業所5名、就学3名、相談支援事業所1名)

イ. ひきこもり外来状況

年 度	平成21年～ 令和3年度	令和4年度	計
延べ回数	395回	52回	447回
新規ケース	67	1名	68名

○当年度では、ひきこもり相談からひきこもり外来に新たに繋がったケースは1名であった。これまで、合計で68名がひきこもり外来にかかっている。

○当年度では、ひきこもり外来を5名に対して行い、計52回の診察があった。

○ひきこもり相談において、すべてのケースではないが、状況によっては精神科的治療が必要なケースがあることが窺える。

2. 支援ネットワーク構築等

支援ネットワーク構築として、関係機関に対する事業概要説明をはじめ、研修会の開催、講演会等の講師派遣、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。

「ひきこもり相談会・研修会」と連携し、「北海道ひきこもり成年相談センター」のひきこもり支援者連絡会議を実施した。具体的な状況は以下のとおりである。

(1) 事業概要説明等

月	日	実 施 内 容	備 考
4	1 4 2 1	札幌市教育委員会より公立夜間中学の開校に向けた連携について	電話
5	1 8	札幌市東区支援調整課、今後の連携について	電話
5	2 5	江別市 A 児童デイサービス、不登校やひきこもりケースについて説明	来所
7	1 2	北海道新聞社、ひきこもり者の就労について情報共有	来所
1 0	2 4	令和 4 年度 社会福祉推進事業「ひきこもり支援における効果的なオンラインの活用方法に関する調査研究事業にかかる調査協力」	WEB 回答
2	1 6	オホーツク相談センターふくろう、ひきこもり相談について情報共有	来所

(2) ひきこもり支援者連絡会議実施状況

当年度も、「ひきこもり相談会・研修会」として、各保健所および市町村に希望確認をし、希望のあった地域と連絡調整をし、相談会等を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえオンライン研修を多く実施した。希望確認の項目と実施状況は以下のとおり。

〈希望確認項目〉

①関わっている機関の職員が集まってのケース検討会

②個別相談（当事者、家族） ③ひきこもりに関する研修会 ④その他

月	日	実 施 内 容	備 考
9	29	京極町（倶知安保健所） 研修会	講師
10	6	厚真町（苫小牧保健所） 研修会	講師 オンライン
10	13	名寄市（名寄保健所） 研修会・ケース検討	講師
10	17	枝幸町（稚内保健所） 研修会・ケース検討	講師
10	18	雄武町（紋別保健所） 研修会（当事者向け・一般向け）	講師
10	21	帯広市（帯広保健所） 研修会	講師
11	1	釧路町（釧路保健所） 研修会・個別相談	講師 個別相談
11	4	壮瞥町（室蘭保健所） 個別相談	オンライン
11	17	南幌町（岩見沢保健所） 個別相談・ケース検討	個別相談
11	22	恵庭市（千歳保健所） 研修会	講師
12	15	北広島市（千歳保健所） ケース検討	オンライン
1	31	旭川市（旭川市保健所・上川保健所） 研修会	講師

※設置要綱 別紙1

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実 施 内 容	備 考
2	20 ～ 27	令和4年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「ひきこもりって精神医療が必要？」～そのはざまで揺れ動く事例～ インターネット配信期間：2/20(月)～2/27(月) 参加者居住地内訳：北海道 233 名(札幌市以外)、札幌市 25 名、道外 5 名	※講師：コーディネーター4 名

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1 週間（24 時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

(4) ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実 施 内 容	備 考
1 1	1	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 令和4年度総会・研究協議会	ZOOM 参加
1 2	2 6	北海道地域若者サポートステーション連絡会議	ZOOM 参加
1	2 0	石狩市こども・若者支援地域協議会代表者会議及び講演会	ZOOM 参加
1	2 3	孤独・孤立に関する連携プラットフォーム構築に向けた準備会 第1回	ZOOM 参加
3	1 4	北海道子ども・若者支援地域協議会	ZOOM 参加
3	1 4	孤独・孤立に関する連携プラットフォーム構築に向けた準備会 第2回	ZOOM 参加

(5) 講師派遣状況等

月	日	実 施 内 容	備 考
1 0	2 9	精神衛生学会（神戸市） ～ひきこもり支援から見えてくるもの～人を無力にするものは何か～	1 名派遣
1 1	1 2	令和4年度 富良野地方精神保健協会 講演会	1 名派遣
1 2	4	ひきこもり VOICE STATION 全国キャラバン in HOKKAIDO（札幌市）	2 名派遣
1 2	2 0	石狩市子ども・若者支援地域協議会代表者会議	1 名派遣

(6) 外部研修参加状況等

月	日	実 施 内 容	備 考
10	29	「ひきこもり生活の未来を生き抜く」 主催：NPO 法人レターポスト・フレンド相談ネットワーク	1名参加
12	4	ひきこもり VOICE STATION 全国キャラバン in HOKKAIDO (札幌市)	1名参加
12	21	SANGO の会 15 周年オンラインイベント 主催：NPO 法人レターポスト・フレンド相談ネットワーク	1名参加 (ZOOM 参加)
12	27	道内の社会的養護経験者の“その後”とパーマネンシー保障の在り方 主催：北海道大学大学院教育学研究院/臨床心理学研究室	1名参加 (ZOOM 参加)
2	28	令和4年度北海道困難を有する子ども・若者の支援連携研修会	1名参加 (ZOOM 参加)

(7) ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実 施 内 容	備 考
3	20 ～ 27	令和4年度 ひきこもりサポーター養成研修 「ひきこもりサポーターの活躍の場」～居場所実践を聞きながら～ ＜各地域からのシンポジスト＞ 札幌市から「居場所よりどころ」、幕別町から「ひろばHIDAMARINO」 石狩市から「相談室まるしえ」、岡山県総社市から「ひきこもり支援センター ワンタッチ」 参加者居住地内訳：北海道 73 名(札幌市以外)、札幌市 39 名、道外 8 名、不明 1 名	ZOOM を利用したオンライン収録かつ動画配信研修会

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1 週間（24 時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

※「ひきこもりサポーター養成研修協議会（※設置要綱 別紙 2）」は上記の理由から開催を見送った

3. 普及啓発

相談先の掲載、インタビュー協力、リーフレット送付等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。

(1) 普及啓発実施状況

月	日	実 施 内 容	備 考
5	25	市民からの問い合わせについて（西野まちづくりセンター）	電話
5	26	「プライマリ・ケアにおけるひきこもり患者の受療と診療に関する研究」A大学	インタビュー
6	3	登別市ホームページ相談先の掲載	相談先掲載
7	4	2023年版 民生委員・児童委員手帳 団体一覧の掲載	相談先掲載
8	16	北海道臨床心理士会ひきこもり支援委員会 ひきこもり支援関係機関の掲載	相談先掲載
11	-	STV ラジオ「ひきこもりについて」収録・出演	出演
11	30	「ひきこもり支援における支援者支援に関するアンケート調査」 厚生労働省社会福祉推進事業事務局	WEB 回答
12	1	滋賀県ひきこもり相談センターより、事業について問い合わせ	電話
1	11	知内町ホームページ相談先の掲載	相談先掲載
1	16	横浜市青少年相談センターより、事業について問い合わせ	電話
-	-	道内保健所および市町村へリーフレット送付	郵送

○講演会や研修会などを活用しひきこもり本人および本人に向けたリーフレットを適宜配布した。

(2) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解の促進や相談先としての周知、支援団体や相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年 度	件 数	備 考
令和4年度	18,994件	
令和3年度	18,027件	
令和2年度	19,640件	
令和元年度	23,001件	
30年度	20,320件	
29年度	19,876件	
28年度	17,297件	
27年度	13,552件	
26年度	13,865件	
25年度	11,431件	
24年度	8,032件	
23年度	4,232件	
22年度	3,220件	
21年度	3,109件	(9ヶ月分)

○「当センターを知ったきっかけ」として、当年度の新規相談94件のうち、「ホームページ」が55件(約59%)と半数以上となっており、有用な周知方法であるとわかる。他内訳としては、「不明」が18件(約19%)、「市町村窓口」が9件(約10%)、残りは「当事者会・家族会」「支援機関」「家族・知人」「新聞」などがある。